

第1章 評価の対象、方法等について

1 評価の対象課題

新規プロジェクト研究候補として以下の5課題を評価の対象課題とした。

- (1) 地球規模水循環変動に対応する水管理技術に関する研究
- (2) 水域における化学物質リスクの総合管理に関する研究
- (3) かしこい建築・住まいの実現のための建築技術体系に関する研究
- (4) 東アジアの航空ネットワークの将来展開に対応した空港整備手法に関する研究
- (5) マルチモーダル交通体系の構築に関する研究

2 評価の方法

(1) 研究評価委員会土木、建築及び港湾空港分科会の開催

専門的視点からの評価を行うため、各分野の専門家で構成された研究評価委員会分科会を開催することとし、建築分科会、土木分科会、港湾空港分科会を、平成14年12月2日、10日、12日にそれぞれ開催した。(資料1「分科会委員名簿」参照)

(2) 評価の視点

評価の視点は、必要性、効率性及び有効性の点から、主に以下の3とすることとした。

プロジェクト研究の掲げる目標(ブレイクスルーすべき問題等)が、技術政策課題を解決するために、適切かつ明確に設定されているか (必要性)

研究計画や研究体制が、目標を達成するために妥当であるか (効率性)

研究成果の、国土技術政策への反映を通じた社会への貢献の道筋が考慮されているか (有効性)

(3) 評価の実施

評価の対象課題である5の新規プロジェクト研究候補を3分科会に分担して評価していただく都合上、研究内容等を勘案した上で、以下のとおり、それぞれの研究ごとに評価責任分科会を設定し、評価責任分科会以外の分科会の委員等からは、事前に資料を送付して意見をいただき、評価責任分科会場でその意見を紹介することとした。

新規プロジェクト研究候補	評価責任分科会
地球規模水循環変動に対応する水管理技術に関する研究	土木分科会
水域における化学物質リスクの総合管理に関する研究	土木分科会
かしこい建築・住まいの実現のための建築技術体系に関する研究	建築分科会
東アジアの航空ネットワークの将来展開に対応した空港整備手法に関する研究	港湾空港分科会
マルチモーダル交通体系の構築に関する研究	土木分科会

分科会当日は、研究内容等について説明した後、分科会長及び各委員から意見をいただき、また他の分科会委員等から事前にいただいた意見も紹介された。(資料3「議事要旨」、資料4「新規プロジェクト研究候補資料」、資料5「他の分科会の委員等から事前にいただいた意見」参照)。

評価結果は、他の分科会の委員等から事前にいただいた意見を含め、評価責任分科会における意見に基づき、分科会長の責任においてとりまとめられた。さらに、本委員会委員長の同意を経て、国総研研究評価委員会の評価結果とされた。

3 評価結果の公表

評価結果は、議事要旨とともに公表することとした。